

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 学習院大学

1. 事業名称

大学・地域連携によるライフステージにあわせた多様な日本語教育

2. 事業の目的

- (1) 本学が実施してきた従来の日本語教室に加え、より年齢層の高い社会人、背景の異なる地域住民に対する新たな講座を行い、多様な外国人のニーズに対応する。
- (2) 小学校から大学、社会人に至るまでの外国人のライフステージにあわせた日本語教育プログラムを構築する。
- (3) これらの事業を通じ、地域・大学間ネットワークを形成する。

3. 事業内容の概要

本事業では3つの取組を通じて上記の目的を達成することを目指した。

- ①取組1 生活に役立つ日本語教室: 学生の年齢を主な参加者に設定し、日本人学生とともに考え、ともに学びつつ、日本社会での生活に役立てる。
- ②取組2 社会に生きる日本語講座: 学生よりも年齢層の高い世代の社会人に対する日本語講座を開設。この講座では、子を持つ親としての、また、地域住民としての社会活動に使える言葉を習得することを目指す。
- ③取組3 シンポジウム「生涯学習としての日本語教育-地域と大学の連携可能性を探る-」: 公立学校との日本語教育実習等の連携事業を通じて得た知見と上記の取組1・2での実績について検討し、次年度以降の事業の方向性を議論する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 10月4日 14:00-16: 30	2時間	学習院大学中 央教育棟	青木マサ子、宇 佐美洋、大野祐 子、品田潤子、文 野峯子、吉田聖 子、米勢治子、村 野良子、金田智 子、大江淳子、藤 川美穂、村松弘 一、室伏礼子	1. 本事業全体の概要説明 2. 取組1・2それぞれの方針について 3. 運営委員の役割について 4. 取組3について内容検討 5. 今後の予定及び体制	本事業の背景、目的、連携に関する現状について紹介をし、本事業で取り組む内容について、学習院大学担当者としての考え方を伝えた上で、連携組織の代表者を含む運営委員による意見交換を行った。取組3については、地域と大学との連携を進めることを目的に、こういった内容及び講演者を迎えるのが適当か意見を出し合った。
2	平成25年 12月9日 15:00-17: 30	2.5時 間	学習院大学南1 号館	青木マサ子、大 野祐子、品田潤 子、吉田聖子、米 勢治子、村野良 子、金田智子、藤 川美穂、村松弘 一、室伏礼子	1. 取組1の進捗状況及び今後の予定 2. 取組2の進捗状況及び今後の予定 ・カリキュラムの工夫について ・ビデオ視聴 ・意見交換 3. 取組3(ワークショップ「地域における学校の日本語教育ネットワークの構築にむけて」)について	取組1・2それぞれについて進捗状況、課題及び今後の予定について報告し、課題解決のための意見交換を行った。特に、就労を目的に日本に暮らす人々が日本語学習に興味を持ち、教室に通い続けるための方策については様々な意見が出た。取組3の具体的内容について案を提示し、構成を練り直すとともに、効果的な広報の仕方について情報を出し合った。

5. 取組についての報告

○取組1: 生活に役立つ日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標: 1997年以来地域の居住者対象に日本語教室を開催してきたが、学生の年齢を主な参加者に設定し、本学の日本人学生とともに考え、ともに学びつつ、若者世代の視点から日本理解を深め、生活に役立つような学びの内容を目指す。

(2) 取組の内容: 同世代の参加者の増加に向けて方策を練り、教室で扱う内容についても若者世代に特化した内容とする。

(3) 対象者 豊島区周辺在勤在住の20代の人々

(4) 参加者の総数 外国人常時参加者8人、外国人不定期参加者4人、日本人参加者7人

(出身・国籍別内訳: 台湾3人、韓国2人、豪州1人、タイ1人、中国1人、不定期参加者台湾4人)

(5) 開催時間数(回数) 18時間 (全10回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年10月1日 14:40-16:40	2時間	学習院大学教室	11人	台湾(2) 日本(9)	ガイダンス・日本語のオノマトペ	オノマトペが使用されている商品を実際に見て、それぞれの違いや使い分けを知る。日常よく使われるオノマトペを実際に使ってみる。	野澤梨沙(講師)	松岡里奈
2	平成25年10月8日 14:40-16:10	1.5時間	同上	13人	台湾(2) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(7)	自己紹介パーティ	クラスメートを知るために自己紹介をし、グループ内でインタビューをする。インタビューの内容をもとに相手を紹介するクイズを作成し発表する。	菊岡美穂	なし
3	平成25年10月15日 14:40-16:10	1.5時間	同上	10人	台湾(4) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(2)	観光	日本の代表的な観光名所を紹介し、行き方を調べる	松岡里奈	八巻明日香
4	平成25年10月22日 14:40-16:10	1.5時間	同上	11人	台湾(4) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(3)	料理	食事のマナー、日本の郷土料理紹介	遠藤芽生	野澤梨沙
5	平成25年10月29日 14:40-16:10	1.5時間	同上	12人	台湾(4) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(4)	恋愛	日本の恋愛の傾向、告白	小野綾香	小野萌子
6	平成25年11月12日 14:40-16:10	1.5時間	同上	11人	台湾(3) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(4)	病気・病院	病院を受診するまでの流れ、市販薬の飲み方	小野綾香	小野萌子
7	平成25年11月19日 14:40-18:10	3.5時間	同上	18人	台湾(7) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(7)	六義園	クラスで集合した後、六義園がどのようなところかを確認し、紅葉を見ながらお茶を飲むために六義園へ行く。	松岡里奈	八巻明日香
8	平成25年11月26日 14:40-16:10	1.5時間	同上	20人	台湾(1) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(7)	タメ語	日本人の若者ことば、タメ語を紹介し使ってみる	野澤梨沙	小野綾香
9	平成25年12月3日 14:40-16:10	1.5時間	同上	18人	台湾(1) 豪州(0) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(4)	お正月	日本のお正月にすることを紹介し、年賀状を書いてみる	松岡里奈	八巻明日香
10	平成25年10月15日 14:40-16:40	2時間	同上	21人	台湾(1) 豪州(1) 中国(1) タイ(1) 韓国(1) 日本(4)	思い出	10回分の思い出などを話しあう	八巻明日香	なし

(7) 参加者の募集方法

豊島区生涯学習グループの協力を得て、区のホームページ、区報などによる広報、区役所窓口での情報提供、学内各部署での掲示、学内授業での告知、日本語学校へのチラシの送付と電話、E-mail等による通知など。

<広報用チラシ>



(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

その日の当番の学生が進行役としてテーマを提示し、日本人と外国人が一緒に話せるように、グループで机を囲み、テーマについて相談したり、意見交換をしたりする。

<教室風景>



(9) 取組の目標の達成状況・成果

当初目標としていた参加者数(10名)は、広報の努力等により達成することができた。以前は、授業や諸活動を計画する際に、目標設定にあまり意識が向いていなかったが、今回の取組をきっかけとして、目標を具体的に記述し、その目標を外国人学習者、日本人参加者、さらに指導担当者がどの程度達成できたかを個別に評価するプロセスを可視化することに取り組み始めた。たとえば、毎回、外国人学習者に対しては、その日の授業のいくつかの側面についての評価(5段階)を実施し、振り返りのための材料としている。さらに、授業後に日本人参加者とその日の担当者が意見交換を行う会を持ち、解決すべき課題等について検討を行っている。

(10) 改善点について

同年代の受講者によりの絞った募集方法を工夫する必要がある。また、学習内容についても、従来の日本人学生が教えたことだけではなく、学習者と周囲の日本人が必要だと考えることについて、調査方法等を工夫し精査していく必要がある。目標の達成状況・成果の検証方法については、取組はまだ始まったばかりである。目標達成状況を知るための評価、殊に自己評価といった方法を採用する場合、それが意味のあるものになるためにはある程度時間が必要であると考えており、今後この点について意識的に改善に取り組む計画である。

○取組2: 社会に生きる日本語講座の実施

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ①外国籍住民が、地域社会で安全かつ快適な生活を送れるよう、必要な日本語を身に付け、日本の学校文化を始めとする社会文化知識に対する理解を深める。
- ②自己評価、学習記録など、学習ポートフォリオを活用することを通じて、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。
- ③扱う内容を検討する上で、豊島区及び他の団体・機関との協力・連携により、外国籍の保護者が抱える問題に関する情報を共有する。また、諸問題のうち、日本語教室で優先的に扱うべき事柄について、先行研究等も参考にしつつ、関係者と教室運営者とが協議の上、候補を挙げる。
- ④日本語教室開講についての周知、参加者募集において、他の団体・組織に協力を仰ぐ。
- ⑤日本語教室実施により、豊島区や各団体・組織・機関と学習院大学との間の連携を強化し、協働で地域の日本語教育に取り組んでいくための体制を作る。

(2) 取組内容

地域社会で生きていくために必要な日本語と社会文化知識を扱う日本語教室を企画・運営する。外国籍住民の内、最多である中国人(11,677人)等を主たる対象とし、その中でも、小・中学校に通う児童・生徒を持つ外国人保護者にとって必要となる学習内容を提供するプログラムを実施する。具体的には、子どもの教育に関わる日本語、医療・福祉に必要な日本語、災害等緊急時対応に必要な日本語を学ぶこと、併せて、日本の学校文化や風習・習慣(各種行事、お弁当作り等を含む)を学ぶことを目指す。指導者には、中国語母語話者、英語、インドネシア語、韓国語等の運用能力が高い者、海外滞在経験を有する者を配置し、媒介語や多文化性を生かした授業を展開する。また、日本語教室での学びが、教室参加後の継続的かつ自律的な学びにつながるよう、教室の内容・方法に工夫をすると同時に、自己評価及び学習管理の方法を知ることのできる学習ポートフォリオを作成し、活用する。

(3) 対象者

豊島区在住・在勤の外国人。特に、小・中学校に通う児童・生徒を持つ外国人保護者やこれまで日本語学習の機会がなかった外国人を主な対象とする。

(4) 参加者の総数 12人

(出身・国籍別内訳:中国8人、台湾1人、ネパール1人、インドネシア1人、イタリア1人)

(5) 開催時間数(回数) 40時間 (全 30 回)

(6) 取組の具体的内容

参加者が日本語によるコミュニケーションにおいて、自分の現状(何ができるか／できないか、何を学びたいか、何を学ぶ必要があるか等)を把握し、テーマ別に準備された学習内容から自分が学ぶものを選択する。その際、指導者・補助者と相談をする。学習内容としては「標準的なカリキュラム案」等の資料を参考に、地震や台風などについて知る、病院へ行く、ゴミ出しのルール・マナーを知る、宅配荷物を受け取る、チラシを読む、学校について知る等、地域社会で生きていくために必要な日本語と社会文化知識を扱う。また、学習ポートフォリオを作成し、現状認識、目標設定、学習活動、振り返りを常に行う。これにより、日本語教室での学びが教室参加後の継続的な学びにつながることを期待する。日常生活に密接に結び付いた日本語学習を進めると同時に、日々の生活の中でなかなか経験することの少ない伝統文化にも触れる機会を設ける。

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 11月20日 15:30～ 16:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	4人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イ タリア(1 人)	ガイダンス、 入門(あいさ つ)	今できることや目標などをポートフォ リオを用いて現状把握する。 あいさつの種類を知り、初対面の挨拶 を自己紹介とともに、実践する。	関豪(講師)	藤川美穂 王丹 瀬戸彩子
2	平成25年 11月20日 16:45～ 18:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	4人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イ タリア(1 人)	地震・台風に 備える	緊急地震速報等がわかるようになる。 緊急度の高い語彙を覚え、実際の の緊急地震速報を見て、内容を読 み取る練習をする。	関豪(講師)	藤川美穂 王丹 瀬戸彩子
3	平成25年 11月21日 9:30～ 10:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	4人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イ タリア(1 人)	ガイダンス、 入門(あいさ つ)	今できることや目標などをポートフォ リオを用いて現状把握する。 あいさつの種類を知り、初対面の挨拶 を自己紹介とともに、実践する。	瀬戸彩子(講 師)	関豪 藤川美穂
4	平成25年 11月21日 10:45～ 12:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	4人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イ タリア(1 人)	薬局へ行く	処方箋を受け取ってから、薬を購入 するまでの一連の行動を知る。薬を 飲む際の語彙を覚え、ロールプレイ で実践する。薬の情報を正しく得ら れるようになったか、絵カードで確認 する。	瀬戸彩子(講 師)	関豪 藤川美穂

5	平成25年 11月23日 14:00～ 15:15	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、 イタリア (1人)	ガイダンス、 入門(あいさ つ)	今できることや目標などをポートフォ リオを用いて現状把握する。あ いさつの種類を知り、初対面の挨拶 を自己紹介とともに、実践する。	藤川美穂(講 師)	張文宜 瀬戸彩子
6	平成25年 11月23日 15:15～ 16:30	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、 イタリア (1人)	薬局へ行く	処方箋を受け取ってから、薬を調 理するまでの一連の行動を知る。薬を 飲む際の語彙を覚え、ロールプレイ で実践する。薬の情報を正しく得ら れるようになったか、絵カードで確認 する。	瀬戸彩子(講 師)	張文宜 関豪
7	平成25年 11月23日 15:15～ 16:30	1.25時 間	学習院大学南1 号館	0人		地震・台風に 備える	緊急地震速報等がわかるようになる。 緊急度の高い語彙を覚え、実際の 緊急地震速報を見て、内容を読み 取る練習をする。	佐藤なぎさ (講師)	王丹 関豪
8	平成25年 11月27日 15:30～ 16:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	4人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イタ リア(1 人)	避難する・身 を守る	地震などが起きたときの対処の仕 方、避難場所のマークと場所がわか るようになる。防災袋に入れたほう がいいものを知る。	王丹(講師)	藤川美穂、 関豪 瀬戸彩子
9	平成25年 11月27日 16:45～ 18:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	4人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イタ リア(1 人)	110,119に電 話をする	どんなときに110番に電話し、どん なときに119番に電話するか知る。電 話でのやりとりの内容及び流れを学 び、ロールプレイで実践してみる。	康継文(講 師)	藤川美穂、 関豪 瀬戸彩子
10	平成25年 11月28日 9:30～ 10:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	6人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イタ リア(1 人)、イン ドネシア (1人)、ネ パール(1 人)	学校行事に ついて知る	どんな行事がいつごろあるか、どん な内容かを知る。行事によって、ど んなものが必要か考え、それらはど こで買えるかグループで話し合う。	関豪(講師)	瀬戸彩子 張文宜
11	平成25年 11月28日 10:45～ 12:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	6人	中国(2 人)、台 湾(1 人)、イタ リア(1 人)、イン ドネシア (1人)、ネ パール(1 人)	病院へ行く	症状によってどんな病院へ行くかを 確認する。初めて医者にかかるとき の行動を動画で学ぶ。問診票の書 き方を知る。初診受付をロールプレ イで練習する。	関豪(講師)	瀬戸彩子 張文宜
12	平成25年 11月30日 14:00～ 15:15	1.25時 間	学習院大学南1 号館	8人	中国(6 人)、台 湾(1 人)、イタ リア(1 人)	文化体験 (お弁当づく り)	事前学習として、学校ではお弁当が どんなときに必要となるか確認す る。調理実習で用いる食材とその名 前を知る。	張文宜(講 師)	瀬戸彩子 康継文 藤川美穂
13	平成25年 11月30日 15:15～ 17:15	2時間	学習院大学北1 号館	8人	中国(6 人)、台 湾(1 人)、イタ リア(1 人)	文化体験 (お弁当づく り)	事前学習を踏まえ、段階ごとに指導 を受けながら、子ども向けのお弁当 を作ってみる。	張文宜(講 師)	瀬戸彩子 康継文 藤川美穂
14	平成25年 12月4日 15:30～ 16:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	1人	イタリア (1人)	入門日本語 (住所・名前 を書く)	自分の住所と名前を日本語で言え るようになる。ポイントカード等の申 込書に住所と名前を書き込めるよう になる。	王丹(講師)	関豪、 瀬戸彩子
15	平成25年 12月4日 16:45～ 18:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、イタ リア(1 人)	ゴミ出しの ルール・マ ナーを知る	ごみの種類とどのようなものが可燃 物か等を確認する。地域のゴミ出し のパンフレットからごみをいつ出す か正しい情報を読み取る。	関豪(講師)	瀬戸彩子
16	平成25年 12月5日 9:30～ 10:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、イタ リア(1 人)	学用品をそろ える	学校に必要な学用品を知る。どこで 購入することができるかを知り、ロー ルプレイによって買い物の練習をす る。	瀬戸彩子(講 師)	関豪 王丹
17	平成25年 12月5日 10:45～ 12:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、イタ リア(1 人)	診察を受ける	体の部位と症状の表現を知る。診察 時の会話の流れを学び、ロールプレ イによって医者とのやり取りを練習 する。	瀬戸彩子(講 師)	関豪 王丹
18	平成25年 12月7日 14:00～ 15:15	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(2 人)	学校行事に ついて知る	どんな行事がいつごろあるか、どん な内容かを提示する。行事によっ て、どんなものが必要か考え、どこ で買えるかグループで話す。	藤川美穂(講 師)	康継文 関豪

19	平成25年 12月7日 15:15～ 16:30	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(2 人)	学用品をそろ える	学校に必要な学用品を知る。どこで 購入することができるかを知り、ロー ルプレイによって買い物の練習をす る。	瀬戸彩子(講 師)	康継文 関豪
20	平成25年 12月7日 14:00～ 15:15	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、イタ リア(1 人)	入門日本語 (店の看板を 読む)	どんな店でどんなものが食べられる かを知る。店の看板を読む際に重要 な語彙を知る。看板を見て、そこで 何が食べられるか、何の店なのかを 類推する。	瀬戸彩子(講 師)	王丹 藤川美穂
21	平成25年 12月7日 15:15～ 16:30	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、イタ リア(1 人)	入門日本語 (チラシを読 む)	チラシを読むために重要な語彙を知 る。商品がどの店で安く買うことが できるか、複数のチラシを見て考える。	佐藤なぎさ (講師)	王丹 藤川美穂
22	平成25年 12月11日 15:30～ 16:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	1人	イタリア (1人)	入門日本語 (店でのやり とり)	スーパーやドラッグストアでどのよ うなものを売っているか知る。ほし いのを説明するための表現を練習す る。ロールプレイで、店員とのやりと りを練習する。	康継文(講 師)	関豪 瀬戸彩子
23	平成25年 12月11日 16:45～ 18:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	2人	中国(1 人)、イタ リア(1 人)	郵便物・宅配 物を受け取る	郵便、宅配のシムテムを知る。不在 時の荷物の受け取り方を音声案内 を聞きながら、練習する。	関豪(講師)	康継文 瀬戸彩子
24	平成25年 12月12日 9:30～ 10:45	1.25時 間	学習院大学南1 号館	1人	中国(1 人)	電話で連絡 する	子どもが学校を欠席、遅刻、早退す る際には学校への連絡が必要であ ることを知る。電話をかける場合の 内容と流れを動画で学ぶ。ロールプ レイで学校の先生とのやりとりを練 習する。	関豪(講師)	瀬戸彩子 張文宜
25	平成25年 12月12日 10:45～ 12:00	1.25時 間	学習院大学南1 号館	1人	中国(1 人)	配布物を読 む	どんな種類の学校配布物があるか 知る。手がかりとなる語彙から、内 容を類推する。各種文書から、ほし い情報を探す。	関豪(講師)	瀬戸彩子 張文宜
26	平成25年 12月14日 14:00～ 15:15	1.25時 間	学習院大学南1 号館	1人	台湾(1 人)	入門日本語 (メニューを読 む)	通常写真があまり使われていない お蕎麦屋さんのメニューを見て、店 員に聞く練習をする。注文時のやり とりをロールプレイで練習する。	瀬戸彩子(講 師)	佐藤なぎさ 藤川美穂
27	平成25年 12月14日 15:15～ 16:30	1.25時 間	学習院大学南1 号館	0人		入門日本語 (住所・名前 を書く)	自分の住所と名前を日本語で言え るようになる。ポイントカード等の申 込書に住所と名前を書き込めるよう になる。	瀬戸彩子(講 師)	佐藤なぎさ 藤川美穂
28	平成25年 12月14日 14:00～ 15:15	1.25時 間	学習院大学南1 号館	0人		電話で連絡 する	子どもが学校を欠席、遅刻、早退す る際には学校への連絡が必要であ ることを知る。電話をかける場合の 内容と流れを動画で学ぶ。ロールプ レイで学校の先生とのやりとりを練 習する。	張文宜(講 師)	関豪
29	平成25年 12月14日 15:15～ 16:30	1.25時 間	学習院大学南1 号館	1人	台湾(1 人)	配布物を読 む	どんな種類の学校配布物があるか 知る。手がかりとなる語彙から、内 容を類推する。各種文書から、ほし い情報を探す。	張文宜(講 師)	関豪
30	平成26年3 月8日 13:30～ 16:30	3時間	目白庭園赤鳥 庵	24人	中国(9 人)、韓 国(1 人)、フ ランス (2人)、 シンガ ポール (1人)、 タイ(2 人)、オ ースト ラリア (1人)、 フィリ ピン(1 人)、日 本(7人)	茶道、和服着 付け、書道	通常の日本語の講座に加え、将来 的な本事業への参加者の掘り起こ しも目的として、日本の伝統文化で ある茶道、和服着付け、書道を体験 してもらい教室を豊島区との連携で 目白庭園にて実施した。豊島区の国 際交流ボランティアFamの協力を得 つつ、茶道は日本庭園内で抹茶を 飲み、着付けでは日本の着物の着 方を紹介し、書道では自分の名前に 合う漢字を講師と一緒に選び書くこ とを行った。フランス・韓国・フィリ ピンなど通常の授業ではみられなかつ た新たな国の参加者もあり、来年度 以降の教室への参加も期待できる。	国際交流ボ ランティア Fam(講師)	

(7) 参加者の募集方法

広報用チラシ及び申込書を日本語・中国語・英語で作成し、学外各所(豊島区役所、豊島区教育センター、外国人経営飲食店、外国人従業員が多い会社等)に掲示及び配布依頼。募集情報を学習院大学学長付国際研究交流オフィスのホームページに掲載。facebook、各種メーリングリスト等でも情報周知。

<広報用チラシ 日本語版/英語版/中国語版>



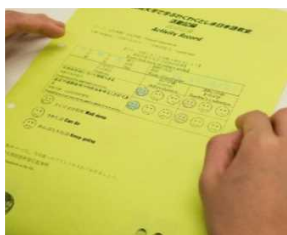
(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

【11月27日 110,119に電話をする】

緊急時に必要となる電話番号(110,119)を確認した後、「状況カード」に示された緊急状況に応じて、どこに電話するべきかグループで相談した。救急車利用マニュアルを見て、救急車が来るまでに準備しておいたほうがいいものを学んだ。そして、それぞれの状況で使用する語彙・表現、助けを求める表現を学び、状況カードを用いて、救急車や警察を呼ぶまでの会話をロールプレイで練習した。授業後、学んだことをポートフォリオの「活動記録」シートで振り返った。



<絵を見て状況を想像>



<活動記録の記入>

【11月30日 文化体験】

「学校のお弁当をつくる」をテーマに調理実習を行った。

実習を行う前に、日本ではお弁当をどんなときに食べるか、どのようなものがあるか、何を入れるかなどを学んだ。その後、調理室に移動し、指導者が実際に調理をしながら作り方を段階的に紹介し、参加者はいくつかの班に分かれて実際に調理し、各自のお弁当を完成した。実習後、今日学んだことをポートフォリオの活動記録シートで振り返った。



<卵焼きを作る参加者たち>



<完成したお弁当と参加者>



<活動記録で自己評価>

【3月8日 伝統文化体験】

ボランティア団体「国際交流ボランティアFam」協力、豊島区後援により、目白庭園赤鳥庵にて「わくわくとしま日本文化教室」を実施した。専門家の指導の下、書道、茶道、和服の着付けを参加者全員が体験した。たとえば茶道では、ただお茶をいただくのではなく、袱紗のたたみ方や挨拶の仕方実地で学び、全員がそれぞれ自分のためにお茶を点てた。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

全29回の日本語教室と伝統文化体験(1回、この回のみ参加可)を合計した参加者数は、当初目標とした数(24名)を上回った。しかし、日本語教室だけの参加者は12名にとどまった。また、日本語教室はもともと全29回のうち希望する回のみ参加するという形式だったが、仕事や家の事情などにより、参加予定であった回を急きょ欠席する場合も少なかった。

学習ポートフォリオを取り入れ、学習目標を設定したり、自己評価の視点を持つことにより、自律的に学習管理ができるような姿勢を養うことを本取組の目標の一つとして掲げていた。しかし、学習ポートフォリオが機能する程度の回数を参加希望していた学習者は4名のみである。よって、ポートフォリオの効果の有無について評価するのは今回は難しい。しかし、それぞれの参加者が最終回を迎えた日には、約1か月の日本語教室への参加を振り返り、達成度を評価(自己評価及び講師評価)すると同時に、「目標を達成できたか」「今後の目標は何か」について自由に記述するというところを行った。日本語だけでなく社会文化知識を得られたという記述があり、また、今後も同様の教室が開講されたら参加したいという情報がほしいという要望の表明、自分がどのくらいできたかを自分で評価するのは面白い、という感想などがあった。ある程度、自身の日本語学習を客観的に見直す機会の提供はできたと思われる。

(10) 改善点について

今後解決すべき課題として、以下が挙げられる。

- ①連携について: 豊島区とは広報において、国際交流ボランティアFamの方々とは取組の内容・方法において連携を行った。また、日本語教室の企画段階で、豊島区教育センターや他のボランティア日本語教室の方々に地域の外国人の状況等に関する情報を提供していただいたり、取組2で行おうとする教室についての意見を頂戴した。豊島区在住在勤の外国人の実態については、さらなる情報収集が必要であり、今後は豊島区との連携を強化すると同時に、国際交流を目的とした団体や外国人従業員の多い企業や飲食店などから情報を収集する必要があると考えている。また、日本語教室では、災害などの緊急時対応の仕方や医療機関での受診の仕方などを取り上げたが、これらは、消防、医療などの関係者にも協力を仰ぎ、専門家との連携を図りたい。また、ごみの分別なども取り上げたが、講師の生活経験によっては、実感を持ってテーマに取り組むことが困難な場合がある。自治会などに協力を得て、同じ住民の立場である日本人と共に活動するなどをし、連携・協力の場を広く展開しながら内容面の充実を図りたい。
- ②実施期間・曜日・時間について: 本事業は開始が8月であったが、準備期間をある程度取りたかったということもあり、実験的な試みとして約1か月の実施期間とした。短期間であり、継続的なものではなかったことの弊害は大きく、参加者数が伸びなかった。また、開講の曜日時間によって参加者数に偏りがあった。今後は、継続参加への意欲をそぐことのないように、長い期間、できれば恒常的に教室を開講するための体制整備をしたい。在住外国人のライフスタイルの把握をし、開講曜日や時間を再検討する必要もある。
- ③広報について: 広報期間が短く、また広報方法にも問題があった。たとえば、広報チラシは各国語版を作るだけでは不十分であり、本教室の特色や学習希望者にとって必要な情報が明確に伝わるような内容、構成にする必要がある。また、潜在的学習者に伝わる方法は何かを検討し、SNSをより一層効果的に活用することも検討したい。あわせて、申し込み方法をわかりやすく簡便にする工夫もしたいと考えている。たとえば、申込書には参加者の日本語能力をCan-do記述(全30の項目にチェック)で把握することとしたが、申し込みの段階で行うのは、参加希望者に対する負担が大きかったとも考えられる。
- ④内容・方法について: 取組1と異なり、取組2が対象とした参加者はより年齢層の高い人々である。また、来日に至るそれぞれの背景は異なり、来日間もない外国人がいる一方で、滞在歴が長いにもかかわらず日本語学習の機会がほとんどなかった外国人もいた。日本語学習に対して目標を持ち、また動機づけを保ちながら継続的に日本語教室に来ることができるよう、学習ポートフォリオを作成したが、各自の計画通りには参加しない学習者もいた。これは、日本語教室の内容・方法が想定した学習者にとって意味のあるものではなかった可能性もあるが、日本語学習にまず興味を持ってもらうことや、興味関心を維持することに対する工夫が不足していたとも考えられる。今後の検討課題としたい。
- ⑤日本文化の扱いについて: 今回は日本語教室の中で、保護者にとって必要となる「お弁当」を取り上げ、日本語教室とは切り離れた形で「日本の伝統文化」を取り上げた。「日本の伝統文化」については、参加者集めに苦勞をし、いわゆる「生活者」としての外国人の参加は必ずしも多くはなかった。彼らが興味関心を持ち、参加してみたいと思われる企画を適当な曜日時間に実施できるよう、情報収集が必要である。

○取組3: シンポジウム「生涯学習としての日本語教育-地域と大学の連携可能性を探る-」の実施

(1) 体制整備に向けた取組の目標

シンポジウムを豊島区との連携により開催し、公立学校における外国籍の児童や保護者が抱える日本語の問題に関する情報を共有しつつ、地域と大学との連携の課題と可能性について検討する。今回の取り組みで試行した大学生と同世代外国人とが交流する日本語教室と保護者や働く人を対象とした日本語教室の実際の紹介等をもとに議論を行い、ライフステージに応じた日本語教育支援体制を整備する基盤作りのきっかけとする。

(2) 取組内容

本事業のまとめとして、取組1「生活に役立つ日本語教室」と取組2「社会で生きる日本語講座」の成果と今後の課題について、地域と大学との連携という観点からシンポジウムを実施する。本学日本語日本文学科が豊島区小学校・中学校と連携して行ってきた日本語学習支援の実際を紹介し、さらに名古屋地区などの成功事例を参考にしつつ、地域と大学との連携に関する専門家による講演を基に、今後の連携可能性に関する検討を行う。

(3) 対象者: 本事業の関係者、地域と大学との連携に興味関心のある方、地域住民

(4) 参加者の総数 29 人
(出身・国籍別内訳 日本 29人)

(5) 開催時間数(回数) 3.5時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年3月12日 13:00-16:30	3.5時間	学習院大学国際会議場	29人	日本(29)	日本語教育を核とした地域と大学の連携	1. 基調講演「学習支援と大学の地域貢献の意義」 2. 実践報告「学習院大学による公立学校における日本語教育サポートについて」 3. 報告「平成25年度地域日本語教育実践プログラムについて」 4. 講演「地域内の連携体制構築に向けてー豊田市と名古屋大学の事例ー」	1. 長沼豊 (学習院大学教育学科) 2. 村野良子 (学習院大学日本語日本文学科) 3. 金田智子 (学習院大学日本語日本文学科)・大江淳子・藤川美穂(以上、学習院大学) 4. 衣川隆生 (名古屋大学)	国際研究交流オフィス スタッフ

(7) 参加者の募集方法

豊島区広報紙「広報としま」に情報掲載。ポスターを関係各所(日本語ボランティア組織、外国籍児童生徒の多い小中学校、豊島区教育センター、国際交流関係団体等)に送付。本学HPに情報掲載。学内掲示。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

地域全体(学校教育機関、自治体、自治会、企業等)が、日本語教育を核として連携・協力を行う上でどういった課題と可能性があるか、をテーマにし、講演及び報告をもとに、参加者がそれぞれの立場から意見を出し合うこととした。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

当初、シンポジウムの最後の30分間は、それまでの講演及び報告を踏まえ、全体で意見交換をする計画であったが、時間調整がうまくいかず、意見交換を行う時間が十分には取れなかった。しかし、質疑の段階で、連携・協力にとって欠かせないもの、コーディネーターを育成する方法、地域による連携方法の異なりなど、全体討論で議論したかった事柄が取り上げられたため、ある程度、意見の深まりや問題の焦点化はできたと考える。

学校関係者や地域住民、ボランティア活動者の参加を期待していたが、シンポジウム内容が魅力的ではなかったのか、あるいは広報の仕方に問題があったのか、参加者は29名にとどまった。しかし、日本語教育関係の公的機関等からの参加者がおり、今後の連携可能性を議論するためのネットワーク作りはできつつある。

終了時、参加者にはアンケートに答えてもらった。属性情報(日本語教育における地域と大学の連携に対してどういったかわりがある方々が参加して下さったのかを知るため)、本シンポジウムの情報入手方法(今後の広報手段を検討するため)の他に、本シンポジウムの関する意見・感想を自由に記述していただいた。大学が地域と連携することに対する大学にとっての意義を明らかにしていくことの必要性について述べられたものもあり、今後、連携協力を進めていくためのヒントとなる記述が複数見られた。

(10) 改善点について

本事業全体で、連携・協力を深めていく必要があるが、なかでも、取組3においては、連携・協力を進めていくために、地域(学校関係者、他の日本語ボランティア関係者、自治会、外国人雇用企業等)の方々が参加しようと思える内容にすること、参加しやすい日時・場所で開催すること、シンポジウム立案段階から地域の方々と相談をすることなどを次の課題としたい。また、単発的な催しとしないためにも、継続性・発展性のある内容とすると同時に、講演・報告に終始するのではなく、参加者が意見を出し合ったり、互いを理解し、次の方策に向けて協働体制が組むためのきっかけ作りができるよう、ワークショップ形式を取り入れたものとするとも検討していきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的(次項に記した通り)

(2) 事業目的の達成状況

(目的1) 本学が実施してきた従来の日本語教室に加え、より年齢層の高い社会人、背景の異なる地域住民に対する新たな講座を行い、多様な外国人のニーズに対応する。

→取組1により従来の日本語教室の内容と方法に関する見直しを行うとともに、取組2によって新たな日本語教室を設計し、子どものいる外国人や就労等のために日本語学習の機会がなかった外国人の学習ニーズに応えた。参加者数についてはいずれも目標を達成したものの、それぞれ、継続性については課題が残るため、今後は継続的な参加を促すための工夫や、潜在的な学習者への適切な対応が求められる。

(目的2) 小学校から大学、社会人に至るまでの外国人のライフステージにあわせた日本語教育プログラムを構築する。

→取組2により、「社会人」への積極的な対応を開始することができた。参加回数の多さや学習ポートフォリオへの記入内容等により、学校に子どもを通わせている外国人や日本人の配偶者への対応はある程度できたと考える。しかし、仕事を持つ外国人、特に豊島区に多い飲食店等サービス業に従事する外国人の参加は少なく、十分な対応はできていない。今後は、彼らの学習ニーズとライフスタイルや日本語能力獲得に対する意識などについて、適切に情報を得つつ、効果的な内容・方法によって、学習機会を設けていきたい。

(目的3) これらの事業を通じ、地域・大学間ネットワークを形成する。

→それぞれの取組において、地域と大学の連携・協力は必須であったため、おのずとネットワーク形成の下地はでき、問題意識の共有は少しずつではあるができてきた。しかし、取組3のシンポジウムの参加者がごく限られた範囲の人々であることから、今後は、より積極的に各取組を関係する組織とともに進め、ネットワークを確立していく必要がある。

(3) 地域における事業の効果、成果

約2万人の外国籍住民が暮らす豊島区は、外国人数に対して日本語教室数が必ずしも十分とは言えない状況である。学習院大学では、これまでも小学校における日本語学習支援や学内日本語教室の開催などを通じて、地域との連携をはかってきたが、これらを強化すると同時に、外国人の各ライフステージにおけるニーズにあわせた教室を新たに展開することにより、大学が日本語教育を通じて地域に貢献すること、地域とともに成長する大学となることを目指した。今年度の事業では、計画通りに各取組を実施したが、すでに述べたように課題は残されている。しかしながら、今回の取組を通して、これまでの地域と大学との連携を見直し、課題をあらためて共有できたこと、また、取組を進める過程で、複数の組織・機関と連絡調整を行ったこと等により、豊島区内の日本語教育の充実に向けた一歩を踏み出すことはできたと考える。また、各取組を進める際に、在住・在勤外国人についての情報収集、広報、文化教室の場所の確保などが必要となり、それらを行う上で、豊島区役所の各部署の所掌や仕事の進め方、日本語ボランティア組織及び国際交流関係のボランティア組織等のそれぞれの目的・役割などをあらためて知ることとなった。これは、今後、連携・協力をよりスムーズに進めることにつながると期待できる。

また、今回の事業では、取組3を通じて他地域の連携状況について学ぶ機会を得た。地域により連携のあり方は異なるだろうが、他地域の成功例を知ることにより、豊島区の特徴がより鮮明になり、豊島区の特徴を生かした連携のあり方について検討する必要性を確認することができた。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

以下の問題点が挙げられる。

1. 連携する機関・組織が限られており、日本語教室を運営する上で、適切な内容・方法が提供できていないこと。
2. 豊島区に暮らす外国人の実態(日本語能力、日本語使用状況、日本語使用に対する意識、ライフスタイル等)が正確に把握できていないため、実態に合わせた日本語教室運営ができていないこと。

ii 今後の課題

1. 「i」に示した問題点を解決すべく、豊島区や他の団体や外国人を多く雇用する企業や店舗等と連携しつつ、豊島区在住の外国人の実態を把握する必要がある。
2. 豊島区の外国籍住民にとって役に立つ形で日本語教室が設けられているのかを検証する必要がある。
3. 上記の連携を進めながら、在住外国人が学びたくなる、また学びやすい日本語教室の内容・方法を検討する必要がある。

iii 今後の活動予定

1. 豊島区在住の外国人の実態を把握するために、豊島区や他の団体や企業等に情報提供を依頼するほか、不明な部分については、コーディネータ等及び本学学生の有志と共に調べ、豊島区内の外国人の全体像を明らかにする。
2. 学内日本語教室(取組1)については、2014年度も同じ期間・回数のを年に2回行う予定である。内容・方法については、今回の取組を踏まえて改善を加えていく。
3. 地域に開かれた教室(取組2)については、2014年度は長期間、定期的を実施する予定である。上記1を行い、在住外国人の生活実態を考慮した時間・場所に教室を設ける。学習内容の見直しをすると同時に、自律的学習を目指して、学習ポートフォリオの改良を行う。
4. 日本語教育における課題を共有し、それを解決するため、他の組織や団体とともにワークショップなどを実施する。ワークショップの企画・運営等の共同作業を通じ、連携体制を整えていく。